

生有研シンポジウムの開催

(平成24年8月27日)

サントリー生命科学財団では、大学の若手研究者や大学院生を対象に「生命機能を探る分子：ユニークなプローブ分子の設計と合成」と題してシンポジウムを開催しました。サントリー研究センターに新進気鋭の先生方をお迎えし、最先端の研究についてご講演いただくとともに、当財団研究所の研究者も含めて、立場と研究領域を超えて議論を交わしました。

HPで参加者を公募したところ、関西の大学を中心に10研究室から34名の参加がありました。若い学生さんからの質疑応答が非常に活発で、時間を大幅に延長するほど盛り上がりました。懇親会でも、お酒を片手に議論の続きに花が咲いていました。大学の垣根を超えて、他大学の学生や生有研研究者と交流をもてたようで、「同年代の学生からの刺激をたくさん受けた」「講師と学生の距離が近くて楽しいセミナーだった」「実用的で先端的な話がたくさん聴けた」という感想をいただきました。有意義な会にしてくださった講師の先生方・参加者の皆様に感謝します。

生命機能を探る分子：ユニークなプローブ分子の設計と合成

- 12:50-13:00 オープニング 末松 誠 (生有研所長)
13:00-13:45 島本 啓子 (サントリー生科財団)
膜タンパク質挿入活性をもつ糖脂質の構造と機能：糖鎖は酵素になれるか？
13:45-14:30 重永 章 (徳島大院 薬)
刺激応答型アミノ酸を基盤とした生命科学分野へのアプローチ
14:30-15:15 叶 直樹 (東北大院 薬)
固定化・プローブ化を基軸とした生物活性小分子のケミカルバイオロジー
15:15-15:45 休憩
15:45-16:30 中瀬 生彦 (京都大 化研)
細胞機能探索に有用なペプチドツール～細胞内導入と受容体創製～
16:30-17:15 戸谷 希一郎 (成蹊大 理工)
糖タンパク質糖鎖機能解析に向けた合成化学的アプローチ
17:25-17:30 クロージング
17:30-19:30 懇親会 (研究センター ラウンジ)
セミナーに先駆けて11:00～ 研究所見学も行いました

もっともよい質問とディスカッションをした参加者を選び、Best Discussion 賞として表彰状と記念品を授与しました。

- (徳島大院 薬) M1 粟飯原 圭佑氏
(大阪大院 理) M2 木内 達人氏
(京都大 化研) M2 川口 祥正氏
(大阪府大院 理) D1 道上 雅孝氏
(サントリー生科財団) 寺 正行氏

